

森づくりの最前線

伊豆森林管理署 筏場森林事務所 森林官 佐々木 克己



中伊豆中学生によるマメザクラの植樹

私が勤務している筏場森林事務所は、静岡県伊豆市の旧中伊豆町の筏場地区に所在する約1000㍍の国有林を管理しています。管内は天城山の万二郎、万三郎（大見森林事務所管内）と八丁池（狩野森林事務所管内）といった有名な観光スポットに挟まれた場所にあります。

伊豆半島は火山活動を繰り返した結果、誕生した半島であり、管内の筏場国有林でも様々な火山活動の痕跡を見ることが出来ます。管内のほとんどは3200年前に噴火した際に生じた溶岩流が冷えて固まった軽石地帯が広がっており、尾根・沢といった起伏のはっきりしない独特の地形が特徴で、軽石をつかむように根を張ったスギやヒノキを見ることが出来ます。平成24

年9月24日に日本ジオパークに伊豆半島が認定されたこともあり、これから火山活動の痕跡を訪ねて国有林に足を踏み入れる方々もますます増えていくのではないかと考えられます。

かつて溶岩流が吹き出した火口は「皮子平」と呼ばれており、数十年前までマメザクラが火口の周りに生え、春先には桜の花を楽しむことができる場所でしたが、近年はマメザクラが衰退してしまっています。昔の風景を復元するために、ボランティアが中心となって、マメザクラ衰退の原因の調査や鹿柵の設置などを行っています。今年の5月には地元の中伊豆中学校の生徒の手によってマメザクラの苗木の植え付けが行われ、今後経過を見守っていく予定です。

皮子平の周辺はのブナの下にのヒメシャラが密生する植生遷移上珍しい林層になっており、これを保護するために植物群落保護林に設定されています。さらに足を伸ばすと天城一番といわれる大ブナが姿を現します。稜線の登山道から少し外れた場所になりますが、天城山登山の際に少し足を伸ばして訪ねてみるのもいいかもしれません。

管内では時折巨大な杉の老齢木を見ることが出来ます。これは御礼杉と呼ばれているもので、江戸時代に天城山を徳川幕府の天領として管理していた頃に、付近の村落に下草や雑木の利用を許した代わりに



ブナ・ヒメシャラ植物群落保護林



天城一といわれる大ブナ



国有林下流に広がる山葵田

植栽させたもので樹齢約200年、胸高直径100㍍超、樹高約40㍍の姿は昔からこの山が地域の住民に利用されてきたことを感じさせてくれます。現在、国有林の下流には畳石式という方法で栽培される山葵（わさび）田が広がっており、日本有数の山葵の産地になっています。山葵の栽培のためにはきれいな流水が必要不可欠であり、上流にある国有林の果たす役割は重要となっています。

天城山と地域の方々との昔からの関係が今後も続いていくように、森林官としてなにができるか、すべきかを考えて今後の業務に当たっていきたいと思います。